



認定書

国住指第 1087-1 号
平成 20 年 7 月 25 日

三谷セキサン株式会社
代表取締役社長 三谷 進治 様

国土交通大臣 冬柴 鐵三



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 26 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法施行規則第 1 条の 3 第 1 項一号ロ(2)の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
TACP-0297
2. 認定をした構造方法等の名称
SUPER ニーディング工法（先端地盤：粘土質地盤）
3. 認定をした構造方法等の内容
別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。



指 定 書

国住指第 1087-2 号
平成 20 年 7 月 25 日

三谷セキサン株式会社
代表取締役社長 三谷 進治 様

国土交通大臣 冬柴 鐵三



下記の建築基準法施行規則第 1 条の 3 第 1 項第一号ロ (2) の国土交通大臣の認定を受けた構造方法について、同項の規定に基づき、下記の通り確認申請書に添える図書から除かれる図書を指定する。

記

1. 認定番号

TACP-0297

2. 認定をした構造方法等の名称

SUPER ニーディング工法 (先端地盤：粘土質地盤)

3. 確認申請書に添える図書から除かれるものとして指定する図書

建築基準法施行規則第 1 条の 3 第 1 項の表 3 の各項の規定に基づき、表 3 の各項の (ろ) 欄に掲げる基礎・地盤説明書のうち、基礎ぐいの許容支持力の算出方法に係る図書 (平成 13 年度国土交通省告示第 1113 号第 6 第一号に規定される基礎ぐいの許容支持力を定める際に求める長期並びに短期に生ずる力に対する地盤の許容支持力として、同号の表中に掲げる式の α 、 β 及び γ の数値を定める部分)

(注意) この指定書は、大切に保存しておいてください。

(1) 地盤の許容支持力及び適用範囲

(別添)

1. 件名

SUPERニーディング工法 (先端地盤：粘土質地盤)

2. 本工法により施工される基礎ぐいの許容支持力を定める際に求める長期並びに短期に生ずる力に対する地盤の許容支持力

1) 長期に生ずる力に対する地盤の許容支持力

$$Ra = \frac{1}{3} \left\{ \alpha \bar{N} A_p + \left(\beta \bar{N}_s L_s + \gamma \bar{q}_u L_c \right) \psi \right\} \quad (\text{kN}) \quad \dots \dots (i)$$

2) 短期に生ずる力に対する地盤の許容支持力

$$Ra = \frac{2}{3} \left\{ \alpha \bar{N} A_p + \left(\beta \bar{N}_s L_s + \gamma \bar{q}_u L_c \right) \psi \right\} \quad (\text{kN}) \quad \dots \dots (ii)$$

ここで、(i), (ii)式において、

α : くい先端支持力係数

① 基礎ぐいの先端地盤：粘土質地盤 $\alpha = 4.25$

β : 砂質地盤におけるくい周面摩擦力係数

① ストレートぐい (拡頭ぐいを含む) の範囲

$$\beta = 4.4$$

② 節ぐいの範囲

$$\beta \bar{N}_s = 5.0 \bar{N}_s + 2.0$$

γ : 粘土質地盤におけるくい周面摩擦力係数

① ストレートぐいの範囲

$$\gamma = 0.7$$

② 節ぐいの範囲

$$\gamma \bar{q}_u = 0.7 \bar{q}_u + 2.0$$

\bar{N} : 基礎ぐいの先端より上方に $3D_1$ 、下方に $1D_1$ 間の地盤の標準貫入試験による打撃回数の平均値 (回)

ただし、個々のN値の上限は100とし、 \bar{N} が60を超える場合は60とする。

D_1 : 節ぐいの節部径 (m)

A_p : 基礎ぐいの先端の有効断面積 (m^2)

$$A_p = \pi \cdot D_1^2 / 4$$

\overline{N}_s : 基礎ぐいの周囲の地盤のうち砂質地盤の標準貫入試験による打撃回数
の平均値 (回)

ただし、個々のN値の上限は100とし、 \overline{N}_s は30を超える場合は30とする。

L_s : 基礎ぐいの周囲の地盤のうち砂質地盤に接する有効長さの合計。

\overline{q}_u : 基礎ぐいの周囲の地盤のうち粘土質地盤の一軸圧縮強さの平均値 (kN/m^2)

ただし、 \overline{q}_u が200を超える場合は200とする。

L_c : 基礎ぐいの周囲の地盤のうち粘土質地盤に接する有効長さの合計。

ψ : 基礎ぐいの周囲の有効長さ (m) (ストレートぐいの周囲の有効長さ)

$$\psi = \pi D \text{ (m)}$$

D : ぐい径、

①ストレートぐい(拡頭ストレートぐいを含む)の範囲はぐい径 D_0 とする。

②節ぐい(拡頭節ぐいを含む)の範囲は節部径 D_1 とする。

なお、基礎ぐいの先端より上方2mの範囲は、周面摩擦力を考慮しない。